



農村伝道神学校後援会だより NO. 126

声、風、土、出会いの響き合いの中で

八雲幼稚園事務長
渡辺志津枝（保育科 13 回生）

私は保育科 13 回生です。日常の生活の多くは幼稚園、教会、野菜作り、そしてジャム作り。図書館で本を借りて読んだり、パズルなども大好きで、そういう時は緊張から解放され、ゆったりとした時を楽しんでいます。

農伝でのこと

私と農伝は、保育科で 2 年間、夫の渡辺が神学生として学びの時を持った 4 年間（2 人の子どもと一緒に）、渡辺が職員をした 2 年間、かかわりを持ちました。保育科での大きな思い出というと、室野玄一先生と植物採集をしたこと、興梠先生に旧約と新約とのつながりのことで質問して、どうしても納得いかなかったことでした。北海道育ちでしたから、初めての草花や木、そしてコジュケイの鳴き声にびっくりし、「これは何？」「これ見たことない」などを連発していました。それが植物、自然、環境等へと気持ちが繋がったのではないかと思います。保育への学びは一所懸命ではなかったかも？

その後のこと

保育科を卒業して、ひばりが丘明星幼稚園教師 2 年、名寄幼稚園教師 1 年、そこで結婚して女兒 3 人をあたえられ、そして交通事故で末娘を失い、私も怪我をして 10 ヶ月入院しました。生かされたことが大きな契機となって、夫は牧師になる決意をして農伝へ。卒業して青森県の藤崎教会と藤崎幼稚園 10 年、北海道の野幌教会 10 年、再び青森県の青森教会と八甲田伝道所 6 年、農伝、そして郷里の山梨県で 1 年間療養休養し、現在の北海道の八雲教会と八雲幼稚園は 10 年目です。

八雲でのこと

幼稚園は昨年創立 70 周年を迎え、『創立 70 周年記念誌 やくもようちえん』を発行しました。現職員、在園児や卒園児の父母たち、旧職員などから原稿をいただき、また年表にはその時代の職員名も記し、全園児の卒園児名簿を載せることができました。卒園された多くの方々がその名前を見て、「忘

れていた思い出が次から次へと浮かんできた」と語ってくれました。幼稚園では事務長（今は囑託）として事務や教務、子どもたちの補助、食育のための畑作りと管理を担当し、子どもたちへの「おはなし」の時間を大切にしています。

園の小さな畑では、カレー作りのためのジャガイモ、ニンジン、タマネギ、また各クラスのリクエストの野菜が作られています。今年のリクエストにきゅうりがあり、先日、収穫した園児が「このきゅうり、イタイ！」と叫んでいました。採りたてのきゅうりのイボイボはとても痛かったんですね。枝や葉をさわるとチクチクして、1 本のきゅうりを手にするまで奮闘していました。

「おはなし」の時間は園長と私が年長組と年中組を交替で担当しています。園長は聖書の話が多いようですが、私は聖書の話もしますが、虫、動物、園庭の草たち、ゴミのことなども話しています。500g の砂糖の袋と同量のプラスチックゴミの袋を手を持たせて「どちらが重い？」と聞くと、ほとんどの子がプラゴミのほうが重いと答えます。「実は同じなの」と言うと皆が「えっ？」と言います。プラゴミは、歩いていても車に乗っていても、道端に落ちていたり木の枝にぶら下がっていることを話すと、子どもたちはそのことをよく知っています。このようなプラゴミがどうなったかを、新聞を開いて見せ、やせ細って海岸に打ち上げられたクジラのお腹の中からたくさんのプラゴミが出てきたことを話しました。子どもたちには衝撃があったようで、目を丸くして顔を見合わせていました。

野菜作りは一番楽しい時です。種を播き成長していく野菜たちが食卓に上がることは、最高の贅沢だと思います。採れた野菜をどう料理しようかと考え、採れすぎた野菜は教会や幼稚園で配っています。畑での心地よい風、虫たちが顔を出し、土に触れる感触などいいですね。畑で熱中症にならないように、と声も掛けられています。（次頁に続く）



園の畑できゅうりとズッキーニを収穫

ジャム作りは私のリフレッシュタイムです。名寄に住んでいた時、イチゴ栽培をしている知り合いの方に「もう終わりになって出荷できなくなったので持って行っていいよ」と声を掛けられたのが、ジャム作りの初めだったと思います。作ったジャムをいろいろな人にお土産にあげると、「これはいいですね。お店で売っているのは甘くてね。お砂糖をどのくらい入れているの？」といわれ、少しずつ分量や果物の形の崩れ具合などを見ながら作ってきました。そして青森教会の時、りんご農家の方（八甲伝道所の会員）から規格外のりんごをいただいたことと、伝道所の畑にルバーブが植えてあったことを活用して、「八甲伝道所を支えるジャム」販売をしました。今は「農伝を支えるジャム」として教会のバザーなどで販売しています。

八雲教会の創立は1906年です。2015年10月「八雲教会創立100周年記念」礼拝とお祝いの会をして、『八雲教会百年の歩みーこの地に生きた信徒たちー』を発行しました。この地に生きた人たちの姿に心をゆさぶられ、八雲の歴史と教会の歴史が

重なり合って築かれてきたことを知る歴史でした。八雲教会は日曜日以外の集会はほとんどなく、出席者も減少しています。一桁の人数であっても「礼拝に来てよかった」と思えるように、独り暮らしの人たちとの会話を大切にしていきたいと思っています。

来春には仕事を退く予定です。どんな「人生の秋」を楽しんでいくのか、今まで出会った方々を訪ねたり、そして野菜作りとジャム作りは続けていきたいと思っています。



五十嵐広司さん・紀子さんと瀬棚の人たちを迎えて

うれしいたのしい秋の収穫 農伝の畑でおイモ掘り

鶴川教会子ども会 棚田はるか



農伝のグラウンドで縄跳び

ました。緑に囲まれ、みんなで食べるお弁当は一段とおいしく感じます。お腹がいっぱいになると、いよいよ畑へ。掘る前に青垣さんから、イモがどうやって大きくなったのか、どうやって掘るのかなどを話していただくと、子どもたちは興味深そうに聞いていました。

そして、待ちに待ったおイモ掘り！ 子どもたちはシャベルや素手で大きなイモを探して、どんどん掘っていきます。すぐに「おイモあったよ！」「見て見て！ 3個もつながってた」とうれしそうな声をあげ、掘り出したイモを得意気に見せ合っていました。収穫した大小さまざまなたくさんのイモは、みんなで仲良く分け合ってお土産として持ち帰るほか、事前に掘り出したイモを焼きイモにして食べます。これが、またおいしい～。

この子ども会のイモ掘りは2005年から続く恒例行事です。たのしい交流のときであり、神さまに秋の実りを感謝する大切な日となっています。

鶴川教会では毎年10月末の日曜日午後には農伝に集まり、子ども会メンバー、ときには中学生、保護者、そしてスタッフでサツマイモ掘りをしています。子どもたちが大喜びで掘り出すイモは、教会員の青垣ご夫妻が農伝の畑で大切に育ててくださったおイモです。

当日は、まず腹ごしらえのために青空の下でシートを広げてランチタイム。いつもはグラウンドですが、昨年は初めてブランコ広場を使い



農伝の畑でのイモ掘り

農村伝道神学校の授業を あなたも聴講しませんか？

農村伝道神学校の授業を学生と一緒に聴講できます。

科目：「農村伝道論」、「日本近現代史」、「宗教学」、「世界キリスト教史」、「日本宗教史」、「一日坐禅会」、「リードオルガン」ほか。



2016年農村伝道シンポジウム『農』を考えるより、岩田雅一氏（日本キリスト教団八戸北伝道所牧師）

聴 講 生 か ら の 声		
<p>ヘブライ語文法など 川浦弥生</p> <p>リカレントのつもりでヘブライ語を通年で受講しています。とてもいいいな説明で授業が積み重なっていくので、取りこぼされる人はいないと思います。毎週、22の文字をNからnまでそらんじてから始まります。小学校1年生になった気分。さあ、旧約聖書を自分が納得のいく言葉で読んでみましょう。後期は楽しみのためにドイツ語を受講します。ネイティブの講師なので、ドイツの生活習慣なども質問しようと思います。一昨年ドイツに行った時にかろうじて覚えた言葉を話したら、ドイツの人たちがじい〜っと聴いて、拍手をしてくれました。目標はもっとスラスラと挨拶すること、カフェでシュバルツバルダーキルシュトルテを注文することなのです。</p>	<p>「接心」を受講して 田口正俊</p> <p>25分間の座禅、5分間の歩行を1セットとし、朝6時～夜9時まで1日16セット行う。眼は半開、耳は聞き流し、手足はそれぞれ組み、一言も発声せずの5日間。よく見、聞き、感覚は全開にという通常の学習スタイルとは真逆。これでは、内に籠るのではと思いきや、坐るうちに自己意識は希薄になり、意識は感覚の制約を離れ自由になる。「黙想室」（禅堂）の豊かな自然環境と相俟って、生命体としての動植物との共生感が日に日に増し、また天空の空、月、星に思いが及び、宇宙空間における存在として自分を意識できたことは新鮮で大きな喜びでした。このような場を与えていただいた農村伝道神学校に心から感謝いたします。</p>	<p>「沖縄と教会」 斉藤小百合</p> <p>2018年度の秋に平良愛香先生の解放講座（沖縄と教会）を聴講しました。距離的にも比較的近いし、農伝とつながりの深い職場（多摩市の恵泉女学園大学）での仕事が調整できる時間で、しかも愛香さんの講座を聴講できるというのは、またとない機会でした。受講中、通常通勤するよりも早起きして鶴川駅からのバスに乗り、日本聾話学校の生徒さんたちに追い越されながら山道を登って登校するのも、新鮮な感覚でした。愛香さんの講義は、それなりに沖縄のことを知ろうと努力していたつもりのわたしでしたが、認識を覆され、新たな気づきを与えられました。神学生の皆さんとともに聴講する、というのが得難い経験でした。礼拝も出席でき、充実した聴講でした。</p>
教 師 か ら 「 聴 講 生 大 歓 迎 ！ 」		
<p>「性差別問題講座」と「沖縄と教会」という2つの解放講座を担当しています。この聴講生たちの熱意がすごい！ 学生と同様にレポートを書き、発表してもらったりするのですが、この授業のために頑張って用意してきたレポートに圧倒されることもあります。もちろん学生たちも一所懸命に授業に取り組んでいますが、聴講生たちは「この科目を学びたい」という理由だけで履修し、授業に参加しているので本当に積極的です。素朴な質問もたくさん投げかけてきてくれて説明がこまやかになりますし、中には「この人に教えることなんてあるのだろうか」と思うほど知識がある人や経験を積んでいる人もいたりするのですが、それでも授業を有意義だと感じてくださっているだけでなく、自らの経験を学生たちと分かち合ってくれたりして、授業に深みが与えられています。担当する教師としては、聴講生に感謝する場面も多いのです。聴講生大歓迎！ お待ちしています。（教師：平良愛香）</p>		

★聴講料・日程など、詳しくは農村伝道神学校事務局までP4奥付のメール等でお問い合わせください。

2021年度 農村伝道神学校後援会会計報告

2021年5月16日～8月20日()内の数字は回数で、金額はその合計です。

後援会献金(団体)	鹿島 正安 2,500 加藤真規子 10,000 樺澤 幸雄 3,000 川島 堅二 10,000 シオン幼稚園クローバーの会 100,000 下谷教会婦人会 10,000 宗万農場 2,000 龍野教会 10,000 天門教会 3,000 那須塩原教会 10,000 合計7件 金額 165,000	中井龍太郎 10,000 西村保典子 15,000 早川三南子 5,000 原 誠 2,000 原田 和子 5,000 東 昌子 3,000 比企 敦子 10,000 平井文則・祐美子 3,000 深澤 正勲 2,000 福島 道子 10,000 藤田 純子 5,000 星野正興・美雪 20,000 保田 茂 3,000 牧野 信次 5,000 牧野 義信 10,000 三浦 修 2,000 水谷 淳 5,000 水谷スエ・信栄 10,000 水地 英子 3,000 森田 恵子 5,000 八木 義人 5,000 柳 和吉 3,000 柳田 雅江 10,000 山鹿 昭明 3,000	ロバート&圭子ユニットマー 40,000(4) 和久井輝夫 3,000 和田 明 10,000 渡辺教・好子 3,000 合計66件 金額 446,500	大谷 速子 20,000 大仲 朝江 10,000 織田 信行 5,000 鏡 清美 5,000 上内 鏡子 2,000 北澤 廣子 5,000 木下 良子 5,000 吉良 保子 10,000(2) 後藤 聡 5,000 後藤美和子 5,000 小林利明・恒子 4,000 近藤 晶子 1,000 齊藤 成二 5,000 佐々木五律子 2,000 清水 芳信 50,000 菅野真知子 5,000 鈴木 一宏 5,000 高橋とも子 10,000 高谷 三郎 5,000 高柳めぐみ 50,000 竹内 忠美 5,000 武田 利邦 10,000 張連淑 5,000 長尾 聡美 3,000 仲里佐代子 3,000 中台 厚 10,000 中村 証二 3,000	中村 正俊 3,000 中村まさ代 3,000 西岡昌一郎 5,000 西崎 和義 1,000 服部栄・圭子 5,000 坂西千鶴子 5,000 平田由喜子 10,000 星 和夫 5,000 本田 和子 5,000 松田弘子・美子 10,000(2) 松山 清子 5,000 三宅 洗子 5,000 矢口美津子 5,000 吉田 十一 10,000 合計51件 金額 374,000	
後援会献金(個人)	相原 誠子 3,000 足立 守 10,000 飯島 隆輔 10,000 池迫 嗣子 3,000 伊藤 眞代 3,000 伊藤 誠之 10,000 井上したふ 3,000 岩高 澄 10,000 大谷 速子 20,000 貝塚夕紀代 5,000	下園 弘子 30,000 白木 梅子 3,000 白鳥吉夫・律子 10,000 酢屋 善元 2,000 田中 浩子 3,000 田中和三郎 10,000 土屋 忠雄 3,000 椿 宏子 2,000 戸井 雄二 2,000	マドカ工務所 10,000 よきサマリヤ人伝道所 20,000 合計2件 金額 30,000	記念日他個人 阿部 洋子 3,000 石黒 文子 3,000 石坂 桂子 10,000 岩崎 和子 5,000 上西知子・哲雄 5,000 江原進・浩子 10,000 大久保洋子 10,000 大関世津子 3,000	記念日他団体 マドカ工務所 10,000 よきサマリヤ人伝道所 20,000 合計2件 金額 30,000	ひとつぶ献金 生田教会 75,200 荻窪教会 91,100 まぶね教会 26,800 水元教会 12,400 合計4件 金額 205,500



ちい
子ロバ工房
手作り木製ペンダント



エゼキエルの十字架(タウ十字)
(左)、イクトゥス(ジーザスフィッシュ)(右)



各 800 円+送料

農伝はがき
秋
(カラー)



ぎんなん

みどりファミリー
絵はがき
(モノクロ)



秋の食卓

はがき 1 枚 50 円+送料

農伝はがきリスト(無料:秋25枚、みどりファミリー24枚、クリスマス22枚)をお送りします。農伝グッズご注文も下記後援会までFax、Tel、メールでお願いします。

事務局だより

◇P1「声、風、土、出会いの響き合いの中で」…農伝73年の歴史のなかで様々な響き合いがあることを思いました。皆さまからの感想、ご寄稿をお待ちしています。

P2「農伝の畑でオイモ掘り」、鶴川教会でのお芋ほり行事は、時に中断しましたが、半世紀前までさかのぼります。当時の楽しかった記憶を語る人は少なくなりましたが、室野玄一先生と農伝のご厚意によって始まったとのこと。いまは多くの教会、団体にも広がっています。

P3「あなたも聴講しませんか?」聴講生の体験記事に感謝いたします。2019年11月学報「農伝『接心』への招き」を思い起こしました。現在、一般社会人・学生約20人が様々な科目を聴講しています。◇コロナ感染拡大が続き、教会は困難のなかで礼拝通信、オンライン礼拝も多いことと思います。そのなかで個人献金が増えていることに深く感謝いたします。バザー開催も難しく、後援会は「子ロバ工房グッズ・はがき」販売の工夫を凝らしたいと実務会で知恵を集めています。アイデア、ご協力をお願いいたします。

2021年度後援会会計報告

2021年4月1日～2021年7月31日現在

献金区分	収入(献金・他)		前年度同期		前年同期比(%)
	2021年度(4月～7月)		前年度同期		
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
後援会費(団体)	10	253,000	10	205,100	123
〃(個人)	79	546,000	73	535,000	102
記念日他献金(団体)	4	70,000	5	63,000	111
〃(個人)	65	579,000	55	405,430	143
ひとつぶ献金(団体)	6	274,400	6	222,500	123
グッズ/コンサート		16,730		31,290	53
合計	164	1,739,130	149	1,462,320	119

発行 農村伝道神学校後援会
会長 島 しづ子
事務局長 長谷川りゑ子

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
TEL 042-735-5775 FAX 042-735-5711
Eメール:
後援会 kouenkai@noden.ac.jp
農村伝道神学校 noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ: https://noden.ac.jp/
郵便振替口座
加入者名: 農村伝道神学校後援会
00120-6-24418